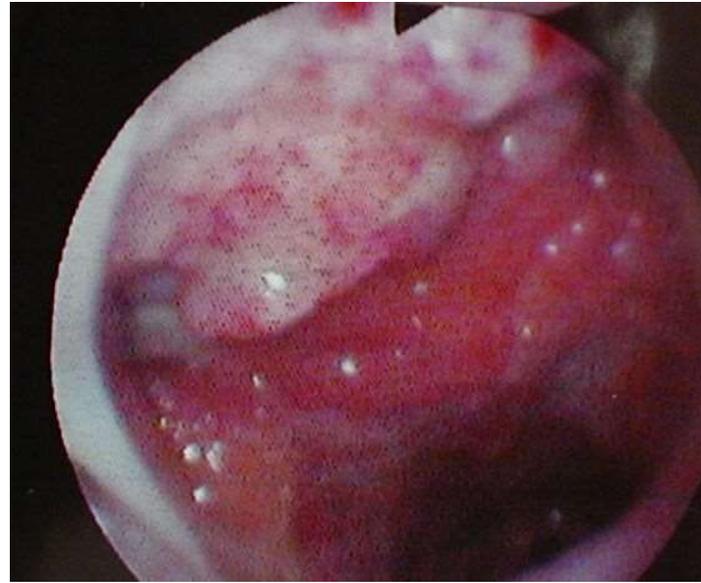
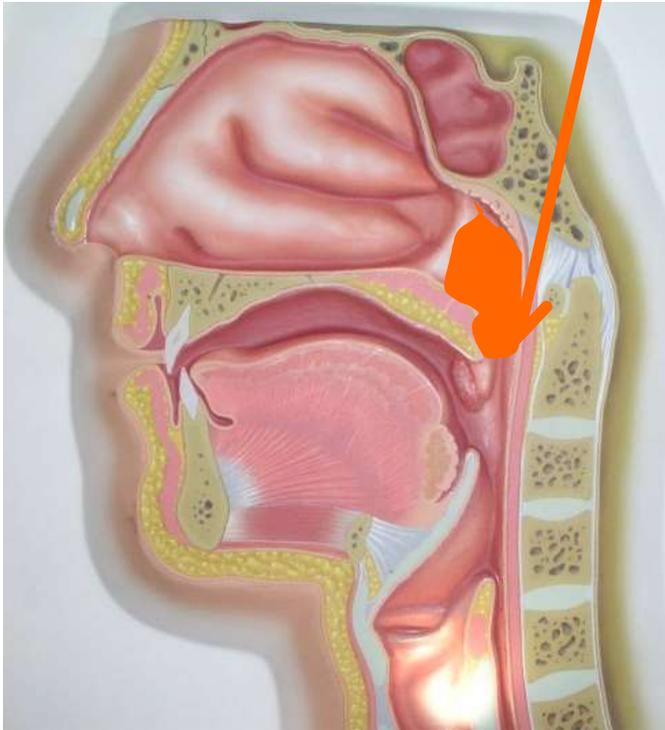


咽頭癌

上咽頭の解剖

上咽頭：側壁、後上壁、下壁



上咽頭癌について 1

ほとんどの上咽頭癌は、EBウイルスが関与する分化度の低い癌です

転移を来すことが多い反面、化学療法放射線治療によく反応します

上咽頭は、鼻の奥の部位のため通常の診察ではあまり観察することがないため発見がしばしば遅れてしまい、頸部リンパ節に転移したり周囲組織への影響がでて初めて発見される場合が多くみられます

症状としては、上咽頭に腫瘍ができることで耳管をふさいでしまい滲出性中耳炎（大人で一側性の滲出性中耳炎が治りにくい場合は注意が必要です）を生じたり、鼻閉や鼻出血を来したり、深部に進展すると脳神経症状（外転神経麻痺や舌咽、迷走神経麻痺による嚥下障害など）を来します

上咽頭癌について 2

頸部リンパ節転移も高頻度で来すため、頸部リンパ節腫脹をきっかけに発見されることもしばしばあります

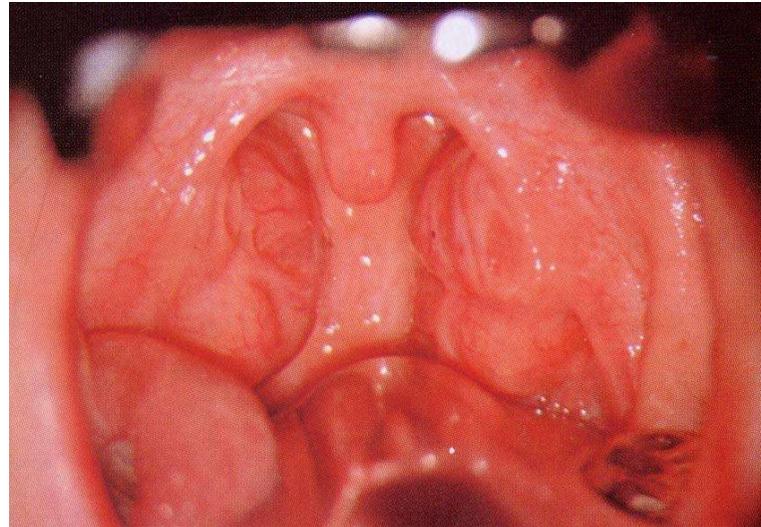
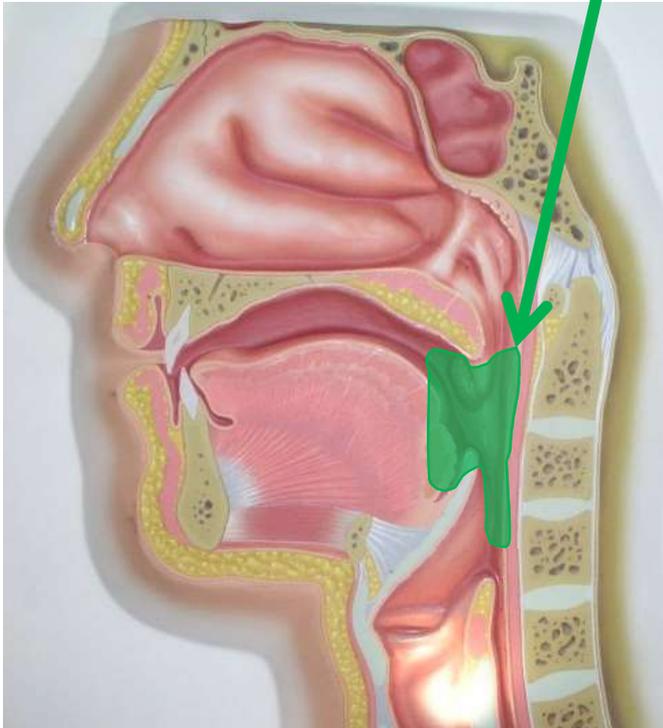
E B ウイルスの関与が多いため、抗体価が上昇します

治療の主体は放射線治療であり、進行癌では化学療法を併用した化学放射線療法を行います

放射線治療による副作用として、口腔内乾燥、まれには頭蓋底骨壊死などが起こることがあり、化学療法の副作用としては腎機能障害や粘膜障害、皮膚粘膜炎などが起こることがあります

中咽頭の解剖

中咽頭：口蓋扁桃など側壁、舌根など前壁、軟口蓋など上壁、後壁



中咽頭癌について 1

中咽頭に発生する癌は、ほとんどが扁平上皮癌で、亜部位別には口蓋扁桃を含む側壁、舌根などの前壁、後壁、上壁の4つに分類される

タバコ、飲酒が関与するもののほかに、ヒトパピローマウイルス(HPV)の感染により発生するものがあり、この二種は臨床像が異なります

HPV関連のものの特徴は、口蓋扁桃および舌根に多く発生し、比較的若年で非喫煙、非飲酒者に多く、原発部位は小さいがリンパ節転移は進行のものが多い 発生頻度は増加しており、治療に対する反応がよく予後良好といったものです

HPV非関連のものは、喫煙や飲酒歴のある老年者に発生します 喫煙や飲酒はほかの頭頸部癌や食道癌のリスクファクターと同じため、重複癌が多く見られ、治療の反応はHPV関連のものに比較して悪く、予後は不良です

中咽頭癌について 2

症状は、咽頭違和感といったもので始まり、咽頭痛、嚥下痛や進行すると開口障害や舌運動障害などもみられます
頸部腫脹で発見されることもあります

病理組織検査により確定診断がなされますが、2017年にHPV陽性の場合に臨床期分類の変更もあり、HPVの有無もチェックします

治療は、手術および放射線を中心に行います

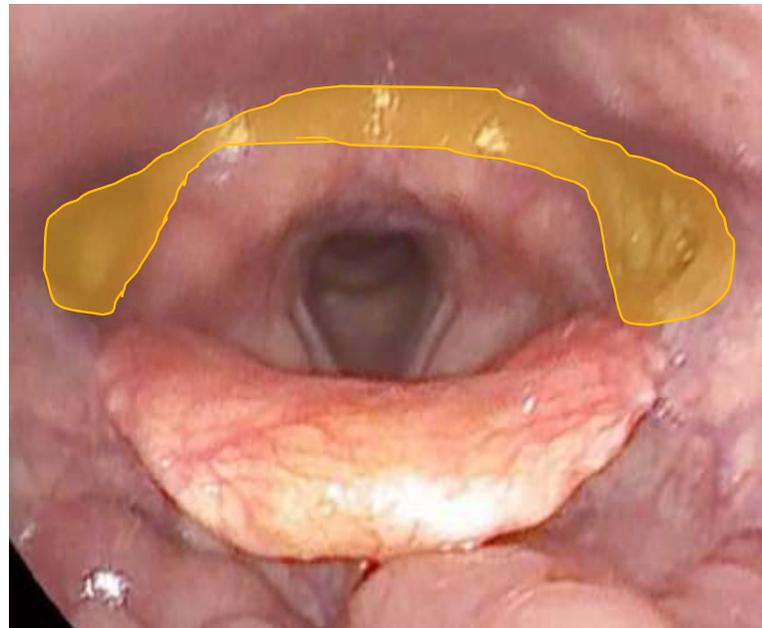
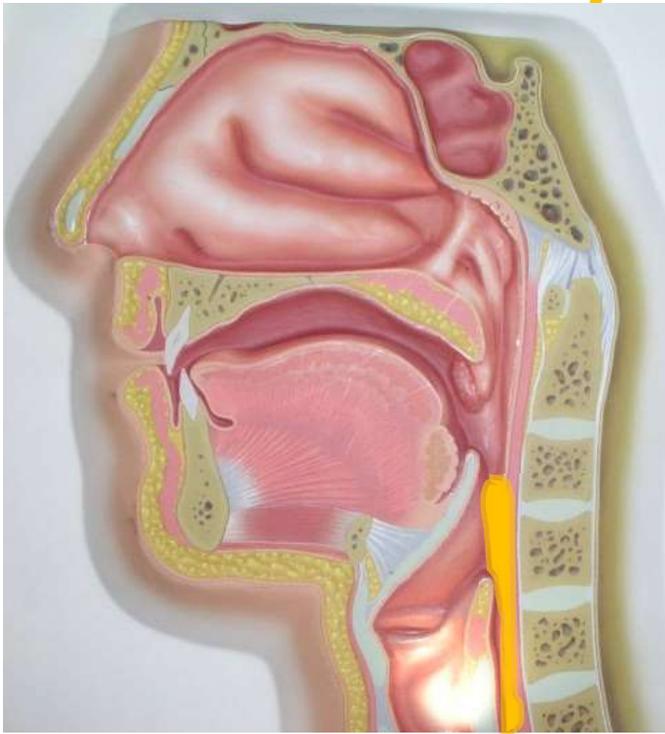
早期症例に対しては、手術（経口的切除など）と放射線治療を中心に治療します

進行例では、手術（腫瘍切除と再建術併用）または化学放射線治療により治療します

いずれの治療においても治療による副作用や後遺症に対する対応が必要です

下咽頭の解剖

下咽頭：梨状陥凹、後壁、輪状後部



下咽頭癌について 1

下咽頭腫瘍は、梨状陥凹、後壁、輪状後部の3つの亜部位に分かれ梨状陥凹が最も多く、60歳代以上の男性に多くみられます

頸部リンパ節を伴うStage III,IVといった進行癌が70%以上を占めますが、近年内視鏡の技術の進歩も伴って早期に発見される症例が増えています

リスクファクターとしては、タバコ、飲酒があり、食道病変を含めた重複癌症例が多いため、上部消化管内視鏡検査で重複癌をチェックします

発症早期には、咽頭違和感などのことが多いが、進行すると咽頭痛、血痰、嚥声や嚥下障害といった症状を呈し、頸部リンパ節転移で初発する症例も多くみられます

診断には、内視鏡検査が有用であり近年Narrow band image (NBI)機能も表在性病変の進展範囲の決定や治療時の観察に有用です

下咽頭癌について 1

下咽頭腫瘍は、梨状陥凹、後壁、輪状後部の3つの亜部位に分かれ梨状陥凹が最も多く、60歳代以上の男性に多くみられます

頸部リンパ節を伴うStage III,IVといった進行癌が70%以上を占めますが、近年内視鏡の技術の進歩も伴って早期に発見される症例が増えています

リスクファクターとしては、タバコ、飲酒があり、食道病変を含めた重複癌症例が多いため、上部消化管内視鏡検査で重複癌をチェックします

発症早期には、咽頭違和感などのことが多いが、進行すると咽頭痛、血痰、嚥声や嚥下障害といった症状を呈し、頸部リンパ節転移で初発する症例も多くみられます

診断には、内視鏡検査が有用であり近年Narrow band image (NBI)機能も表在性病変の進展範囲の決定や治療時の観察に有用です